

# 神の癒しが心にも

蛇澤 聡  
(富山県在住)



## 私

は、両親が小学校教師の家庭に育ち、家の宗教は浄土真宗でした。祖母は毎夕仏壇に向かつてお経を唱えていましたが、私には意味がわからず、私自身は無宗教といってもよい状態でした。また、高校生の時から父親との関係が良くありませんでした。経済的な負担をかけて、親に借りを作りに住むことを選びました。

**寮** 生活を始めて、ちょっとしたきっかけでパチンコを覚えしました。パチンコは一日で多くのお金が失われていく遊びです。親から生活費のために与えられたキャッシングカードから、一万、二万といつしかお金を引き出しては、パチンコにつき込んでいききました。あれほど親に借りを作りにくくないと思っていた私だったのに、親のお金を湯水のように使い込みました。不審に思った母親から電話がかかってきても、止めることはできませんでした。

## 雪

の降る夜、パチンコで散々に負けて寮に帰る途中、川の橋にさしかかりました。「なんて弱い自分なんだろう。もう絶対パチンコはしない。もし明日もこうなったら、この川から身を投げてしまおう。」そう決意しても、自分を変えることはできませんでした。

大学三年目の時、体調のすぐれない日が続いていたのですが、ある夜、発作に見舞われました。自分が今にも死



牧師夫妻と教会にて

ぬかもしれないという恐怖を感じました。発作はしばらくして収まりましたが、再び発作が起こるのではと思うと、外出もままならなくなりました。病院で診察を受けても、結果は異常なしでした(この症状が「パニック障害」で、治療によって普通に生活できることがわかったのは、ずっと後のことです)。

## う

つつとした悩みの中、朝刊に一枚のチラシが折り込まれていました。キリスト教会の特別集会の案内でした。私は集会に行く決心をしました。

集会で開かれた聖書のことば、「こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。…こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。」(ローマ一章二六、二七節)を聞き、自分の病気は、神様から受けている当然の報いのように思えました。

## 集

会の終わり、「この中にイエス様の救いを受けた人はいますか?」との招きに応じて私は手を挙げました。牧師の導きにより、数々の罪をお詫びしました。イエス様が、私の罪のために私の身代わりに十字架にかかって下さったこと、私の救い主であることを信じました。翌月、洗礼を受け、その時、「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(一ヨハネ一章九節)の聖書のことばが与えられました。

## 神

様は私を憐れんで下さいました。ひどかった不安が和らぎ、心に平安が与えられました。就職に際しても、神様の導きが与えられて上京、結婚し、四人の子どもにも恵まれました。今では故郷に帰り、父親との関係も改善し、長年の心のつかえがとれたように思います。神様の導きに感謝しています。

悩みの中、手にした一枚のチラシ……



娘の成人式に家族と共に